

info!
ながさき

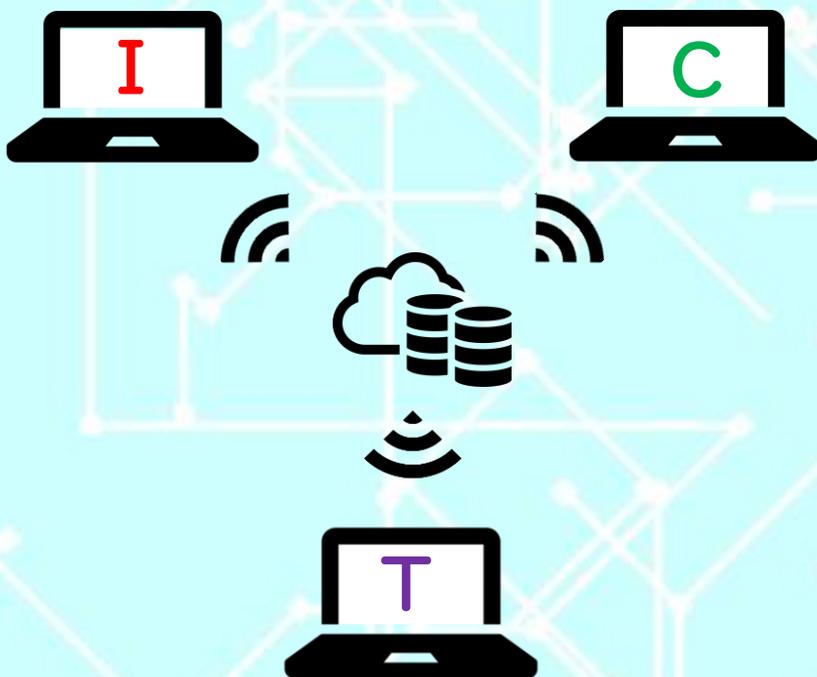
長崎県教育センター通信

Information of Nagasaki Prefectural Education Center

31
号

令和4年12月10日

I (い) まこそ Chance !



Try してみよう

児童生徒に1人1台端末が整備され、活用が始まっています。端末を含むICTの特徴が見えてきた今だからこそ、本紙を手にとって、新たなICT活用に挑戦してみませんか。小・中学校や高等学校、特別支援学校の事例をもとに、全ての学校の先生方のICT活用の後押しができるような内容を記載しています。

また、本31号はデジタルファイルでの発行に伴い、各ページに情報の参照先のリンク(令和4年12月1日現在)を記載しています。詳しい内容や最新の情報については各リンク先のWebサイト(📄マークあり)にアクセスして御確認ください。

さあ、表紙を
開きましょう

I (い) まこそ Chance! Try してみよう

<目次>

学校における I C T の活用推進へ向けて	1
小・中学校における子供の資質・能力を育むための I 人 I 台端末の活用	2
高等学校における協働を育む I C T	4
特別支援学校における I 人 I 台端末・高速通信環境を活かした I C T の活用に向けて	6
端末を活用した不登校児童生徒への支援を目指して	8
I C T を活用した校内研修等について	10
I 人 I 台端末時代における著作権について	12
所長あいさつ、アンケート、連絡先一覧	14

学校における I C T の活用推進へ向けて

昨年度は、多くの学校で端末や高速大容量ネットワーク等、新たな I C T 環境が整備されると共に、その活用がスタートしました。児童生徒のよりよい学びを創り出すことのできる I C T 環境を活用して、校内研修や同僚の先生方同士の中で、以下の取組が行われた学校がありました。

- ・ビデオ会議システムと思考ツール等を共有できる機能を用いたグループ協議
- ・教師側と児童生徒側の両方の立場でクラウドサービスの体験
- ・動画教材を視聴し、オンラインのアンケートフォームで研修を振り返り



これらの取組を通して、I C T 活用に関する以下のような疑問を抱いた方はいらっしゃいませんか。

- ✓ 子供のどのような資質・能力を育成するのか。
- ✓ 「協働的な学び」をどのように実現するのか。
- ✓ 特別な支援を要する子供にはどのような方法が効果的か。
- ✓ 登校するための一歩が踏み出せない子供を救うためにはどのような方法が効果的か。
- ✓ これからの教師の学び方（研修の在り方）はどのように変わるのか。
- ✓ 授業や校務の中で I C T を活用する際、心がけておくべきことはどのようなことか。

上記のような疑問に加え、なかなか I C T 活用の一歩が踏み出せない方や、よりよい I C T 活用の次の一歩に踏み出したい方の後押しになるような内容を次ページ以降に記載しています。是非、本 31 号を手に取りながら、同僚や整備された I C T 環境と対話を重ね、これからの時代を創る子供たちの心身の成長とこれからの学校教育について考えていきましょう。

小・中学校における子供の資質・能力を育むための「人」台端末の活用

各教科等での授業において、「人」台端末の活用が進んでいます。

「使ってみるの“その先へ”歩みを進めるためには、資質・能力の育成を見据えた活用が求められます。

1. 資質・能力の育成に向けて

各教科等の特質に応じた授業や単元等の目標を設定

各教科等の特質に応じた「主体的・対話的で深い学び」を展開

「人」台端末の活用

繰り返しによって資質・能力の発揮・高まりが促されます。

資質・能力の育成

各教科等で育成を目指す資質・能力

学習の基盤となる資質・能力
(情報活用能力)

学習指導要領は、資質・能力として次の3つを挙げています。

- ・教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力
- ・ **学習の基盤となる資質・能力**
- ・ 現代的な諸課題に対応していくための資質・能力

- ア 言語能力
- イ **情報活用能力**
- ウ 問題発見・解決能力



そして、「教科等横断的な視点からの指導のねらいの具体化や、教科等間の指導の関連付けは、教科等の枠組みを越えた資質・能力の育成にもつながるものである。」と示しています。

「人」台端末の活用と深く関連する「情報活用能力」は、「学習の基盤となる資質・能力」に位置付けられており、「情報活用能力は、各教科等の学びを支える基盤であり、これを確実に育てていくためには、各教科等の特質に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要であるとともに、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における『主体的・対話的で深い学び』へとつながっていくことが一層期待されるものである。」と示しています。

これを受けて、「[教育の情報化に関する手引き-追補版- \(令和2年6月\)](#)」では、情報活用能力の要素を右のように示しています。

このことから、「教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力」を育む授業においては、「学習の基盤となる資質・能力(情報活用能力)」も併せて育むことが求められていることを踏まえ、学習場面での『子供の姿』を資質・能力育成の視点で捉え、「人」台端末の活用を位置付けることが重要です。

「問題解決・探究における情報を活用する力」

事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力

- ① 必要な情報を収集、整理、分析、表現する力
- ② 新たな意味や価値を創造する力
- ③ 受け手の状況を踏まえて発信する力
- ④ 自らの情報活用を評価・改善する力

情報活用能力の要素 (一部抜粋)

学習場面での『子供の姿』を資質・能力育成の視点で捉え、「人」台端末の活用を位置付けることが重要です。

「[教育の情報化に関する手引-追補版-](#)」
(令和2年6月) 文部科学省 



2. 中学校英語科における実践

目標を設定する

アイデアを出す
 旅行先を提案する視点を明確にする

アウトラインを作成する

下書きをする
 アイデアを生かし、既習のつなぎ言葉を用いた構成を考えて書く

級友と読み合う

修正する

企画書完成
 目標で設定した目的・場面・状況を踏まえ、既習のつなぎ言葉を用いて「導入・展開・まとめ」の構成で企画書を書く

「目的・場面・状況」を明確にした単元の目標を設定

誰のために	何のために	どのように	何を
単元のゴール	旅行を検討しているALTに	旅行先を提案するために	情報や理由を整理して、夢の旅行の企画書を作ろう。

アイデア
 ①必要な情報を収集、整理、分析する

下書き
 ②新たな意味や価値を創造する

企画書
 ③受け手の状況を踏まえて発信する

【検索機能の活用】
 興味・関心に応じた情報の検索により、多様なアイデアを創出できるようにする。

【Google Jamboard™ の活用】
 Google Jamboard の機能を生かして付箋の移動が容易で、自分の考えを整理できるようにする。

「書く活動」を設定し、思考・判断し表現する機会を一人一人に保障する。
 ・調べたことを基に書く
 ・理由を明らかにして書く
 ・自分の言葉で書く

読み合い
【Google Jamboard の活用】
 視点別に付箋を貼ることにより、検討する表現や内容に着目できるようにする。

修正
【Google ドキュメント™ の活用】
 アドバイスに応じた修正を行うことにより、複数の表現等を比較し、表現や内容を吟味できるようにする。

【Google ドキュメントの活用】
 Google ドキュメントの機能を生かして写真等を使用することにより、自分のイメージを視覚的に伝えやすくする等、相手を意識した表現をできるようにする。

個別学習 **往還** **協働学習**

往還でより深い学びへ



中学校外国語科の実践は、[学校支援サイト「玖島の杜」](#)の研修員個人研究を基に作成しています。学習指導案や展開細案等を掲載していますので、御活用ください。

学習場面での「子供の姿」を資質・能力育成の視点で捉え、1人1台端末の活用を位置付けることにより、「各教科等で育成を目指す資質・能力」と「学習の基盤となる資質・能力（情報活用能力）」の育成を目指した「主体的・対話的で深い学び」の展開につながります。

各校種の学習場面ごとの活用提案は、[長崎県教育センターWebサイトの「GIGA スクール構想」のページ](#)から御覧ください。



各校種の学習場面ごとの活用提案については、[長崎県教育センターWebサイトの「info! ながさき」のページ](#)から30号を御覧ください。



高等学校における協働を育む ICT

『令和の日本型学校教育』を指して（答申）では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を図ることが求められています。

生徒同士が教え合い学び合う協働的な学びによって、知識・技能だけでなく、思考力等の資質・能力も育成されます。これまでの優れた教育実践と基盤的なツールである ICT とを最適に組み合わせることで、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことができます。

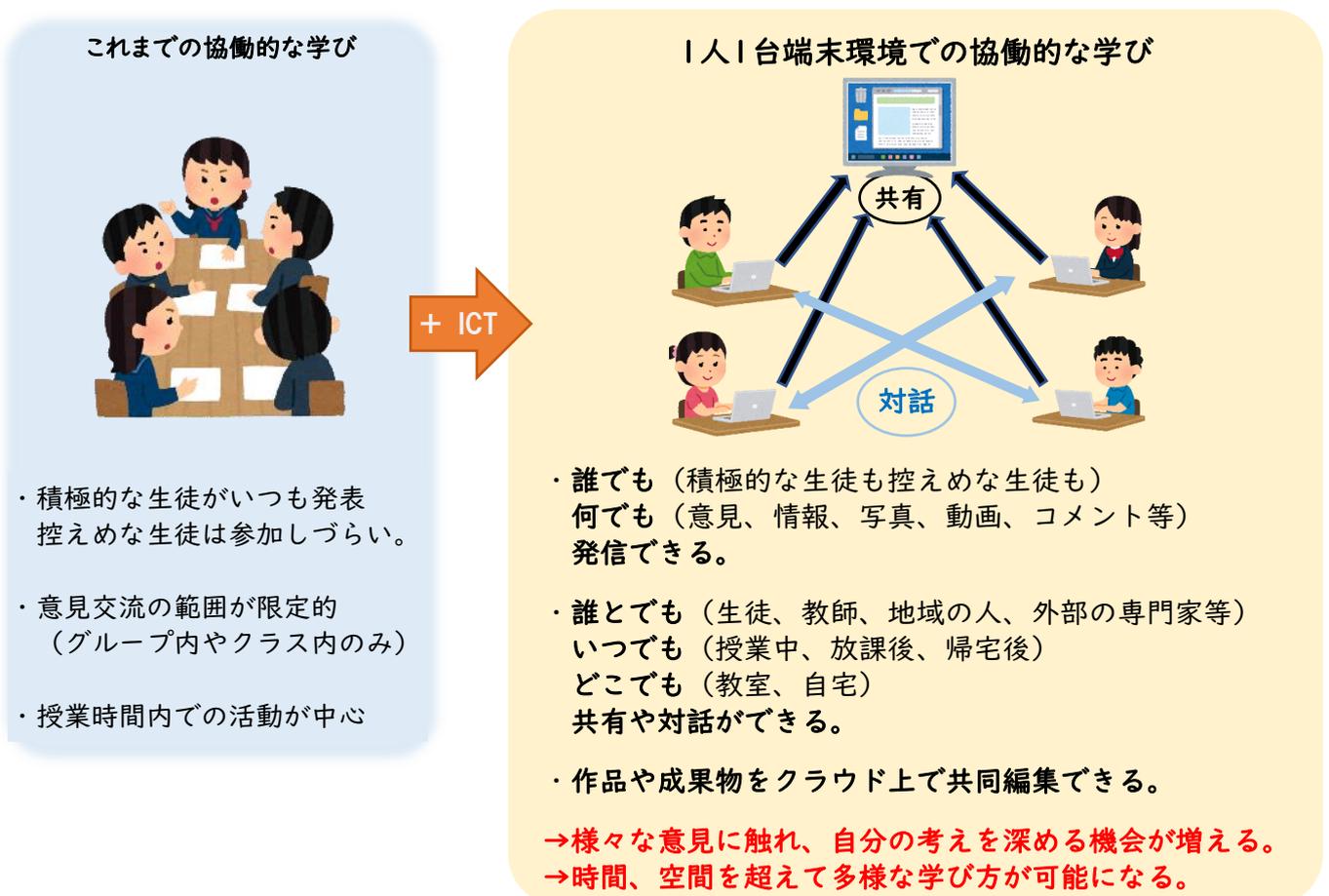
1. 「教師主導で教え込む授業」から「生徒たちが教え合い学び合う授業」へ

これまでの（電子）黒板だけを使った授業では、教師主導で教え込むスタイルが多くならざるを得ませんでしたが、1人1台端末の特性を生かせば、生徒一人一人が主役となる協働的な学びが可能となります。



2. ICTを活かして、より質の高い協働学習へ

これまでも協働的な学びは行われ成果を上げてきましたが、1人1台端末でその在り方は大きく変容します。



3. 学校におけるICTを活用した学習場面

文部科学省は、ICTを効果的に活用した協働学習の場面として次の4つを示しています。詳細な具体例や一斉と個別の学習場面については、右記を参照してください。

「教育の情報化に関する手引-追補版-」
(令和2年6月)文部科学省 []



C1 発表や話し合い

グループや学級全体での発表や話し合い

例) **電子黒板でプレ発表・協議**
隣のグループと全体発表前にプレ発表を行う。プレ発表で伝わりにくい部分を洗い出し、修正することで発表の質を高めることができる。

C2 協働での意見整理

複数の意見・考えを議論して整理

例) **意見の比較・整理**

学習者用端末や電子黒板にグループ内の複数の意見・考えを書いたカードを映し、整理したり動かしたりしながら意見を出し合う。画面上に並べることで、共通点や相違点がわかりやすく議論がしやすくなる。

C3 発表や話し合い

グループでの分担、協働による作品の制作

例) **クラウド上でデータの共有**
ある自然現象の様子を図示するとき、共同編集でそれぞれが書き込みを行う。互いの書き込みが即時に反映され、それを見ながら議論し、1つのイメージ図を完成させる。

C4 学校の壁を越えた学習

遠隔地や海外の学校等との交流授業

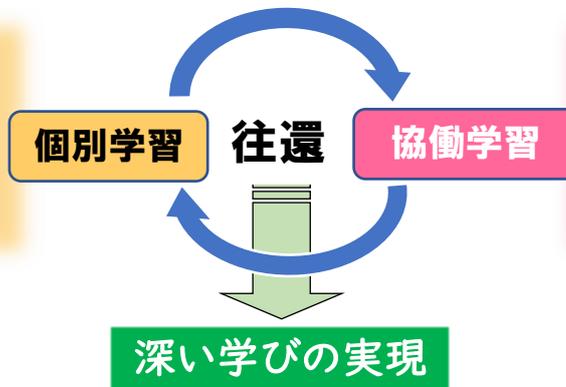
例) **国内外の学校との交流授業**

Web上でつながることで、遠隔地にある学校とも交流が可能になる。オンライン文化言語交流プログラムを利用して、メッセージ機能や録画した動画を通して交流を行えば、海外の学校とも時差を気にせず交流ができる。

4. 個別学習と協働学習の往還でより深い学びへ

授業を設計する際には、それぞれの学習活動を往還させることが重要です。

- ・知識・技能の習得
- ・調べ学習、情報収集
- ・個人で資料・作品制作
- ・学習の振り返り など



- ・意見交流・整理
- ・話し合い・発表
- ・異学年・学校外との交流
- ・協働での制作 など

◎授業の例 論理・表現 I 「海外の人が訪れたいと思ってもらえるように、英語で長崎を紹介しよう」

授業の流れ	学習場面
1 実際に日本で異文化体験をした外国人のブログや観光地の感想などを見て、外国人観光客の興味のあるものを英語で紹介するための表現を学ぶ。	一斉学習
2 紹介したい長崎の情報や写真などの素材を収集する。 調べた内容をもとに話し合い、スライドと発表原稿を作成する。	個別学習 協働学習
3 グループでまとめたものを発表する。 他のグループの効果的な表現や工夫している点について話し合い、自分たちの作品に修正を加えて提出する。	協働学習
4 学習活動で得た気づきや考えを振り返る。	個別学習

特別支援学校における 1人1台端末・高速通信環境を活かしたICTの活用に向けて

1人1台端末・高速通信環境の整備が進む中、資質・能力の3つの柱をバランスよく育成するために、整備された環境を活かしながら、教材・教具や学習ツールの1つとしてタブレット端末を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげることが、今後ますます重要となります。

1. オーダーメイドの支援

個々の能力や適性等に応じて個別最適化された学びは、これまで特別支援教育の現場で培われてきた支援、すなわち、児童生徒の実態や障害特性等に合わせて行ってきた支援そのものです。1人1台端末の活用は、それらの支援を効率的・効果的に行うための有効な手段となります。

場面や時間を限定せずに、アクセシビリティ機能の日常的な活用を！



操作

iPad タッチャー
視線入力装置
レバースイッチ
ジェリービーンスイッチ
外付けキーボード
トラックパッド
トラックボール
マウス
スタイラスペン など

個別にカスタマイズされたタブレット端末は、コミュニケーションツールとして有効！

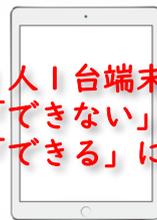


入力

ジェスチャ※1
手書き
単語予測
仮名文字・ローマ字
音声認識
スイッチコントロール
グライドカーソル
静止画 (OCR)
視線認識 など



1人1台端末で
「できない」を
「できる」に！



学び方

学習用アプリ
Web 教材
Web 検索
Microsoft Teams
Microsoft Forms
オンライン授業 (Web 会議)
[ラインズeライブラリアドバンス](#) [📱]
動画系コンテンツ
LMS※3 など

出力

音声合成 (読み上げ)
拡大・ズーム表示
反転表示
カラーフィルタ
明度調節
ハイライト表示
テキストサイズ調節
VR・AR・MR
振り仮名表示※2 など

教材の配付や回収、自動採点、協働学習など、クラウドの利点を活かそう！



実態や特性に合わせた学び方で、自分で学ぶことができる選択肢を増やしていきましょう！



※1 タッチ・スライド・タップ・フリック・スワイプ・ドラッグ・ホールド・ローター・スクラブ など

※2 「こどもブラウザ」「ふりがな」など、iPad アプリの活用による表示

※3 Learning Management System：学習管理システム

2. ICTだからこぞできる学び

仮想現実（VR）や拡張現実（AR）などの技術を活用した体験的な学びは、学習意欲の喚起や学習内容の定着のためにもとても有効です。また、オンラインプレゼンテーションやオンラインクイズプラットフォームなどの Web サービスを活用することで、双方向アウトプット型の学習場면을教室内にすることも可能となります。

Web サービスを活用して、児童生徒に選択権を与える工夫を！



【活用例】



防災教育

降雨情報をリアルタイムに表示する AR アプリの活用



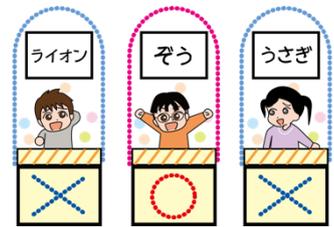
社会／校外学習

地形を 3D 表示するアプリの活用



図画工作／美術

飛び出す 3D 塗り絵アプリの活用



遠隔授業

AhaSlides [] や Kahoot! [] などの Web サービスの活用

3. 情報の可視化と記録の蓄積

タブレット端末（アプリ）によるスケジュール、タイマー（時間）、マインドマップなどの情報の可視化、写真や映像、音声などによる学習記録の蓄積は、児童生徒の生活のしやすさや学びやすさ、振り返りのしやすさなどに繋がります。

iPad は映像と音声と文字情報を統合して扱える有効な支援ができる機器です！



【活用例】



日課・時間割



すること (ToDo)



家庭学習／学習支援サービス



デジタルポートフォリオ

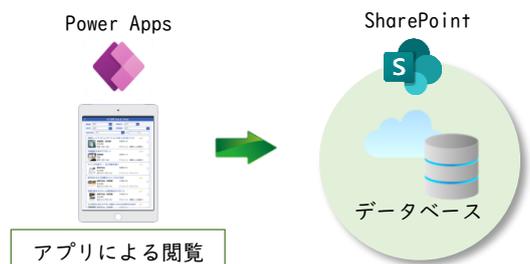
4. 教材の共有と利活用

児童生徒の学力や実態等に応じて自作した教材をクラウド上に保存することで、他の教職員と教材を共有したり、他の教職員が作成した教材を調整・利活用したりすることが効率よくできるようになります。



【お知らせ】

特別支援教育研修班では、SharePoint 上に ICT 活用事例データベースを構築し、Power Apps アプリ（iPad または PC）で閲覧できる仕組みを作成しました。利用方法等については、別途お知らせします。児童生徒の障害の状態や学習のねらい等に応じて、是非ご活用ください。



端末を活用した不登校児童生徒への支援を目指して

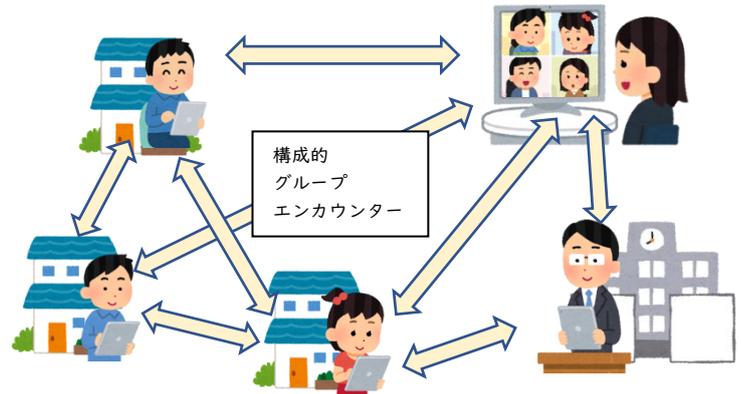
長崎県内の不登校児童生徒数は年々増加しており、令和3年度は2,784人となりました。学校や教育支援センターなどの関係機関では、不登校児童生徒へ様々な支援を行っていますが、減少につながっていないのが現状です。そこで、教育相談班では、不登校児童生徒への支援として、1人1台端末を活用した有効な支援の在り方について研究を行っています。

1. 研究の目的

本研究では、端末を活用した「心をひらく端末支援メソッド」をとおして、不登校児童生徒が学校や社会、人とのつながるための有効な支援の在り方を研究し、その成果や課題を関係機関等へ発信します。

(1) 「心をひらく端末支援メソッド」とは

構成的グループエンカウンターの手法の中から端末で活用できるものを編成し、長崎県教育センターが独自で開発したものです。端末を活用してエクササイズを行うが、不登校児童生徒の心理に応じて以下のステップがある。



ステップ1
文字による交流

・チャット、メール等で文字による交流および心の支援を行う。
(Google Classroom™、Teams 等)



ステップ2
音声による交流

・テレビ会議システム（カメラオフ・マイクオン）等で、音声による交流および心の支援を行う。(Google Meet™、Teams 等)

ステップ3
顔を合わせて交流

・テレビ会議システム（カメラオン・マイクオン）等で、顔を合わせて交流および心の支援を行う。
(Google Meet、Teams 等)



(2) 「構成的グループエンカウンター」とは

自他発見とふれあいのある人間関係による行動変容、人間的成長をねらった集団的学習活動の手法のことです。学校現場では、グループ体験を教師が意図的に組織し（構成的）、本音の語り合いによる人間関係を通して（グループ）、今まで知らなかった自分や他者に出会う（エンカウンター）ための「教育技術」と言えます。

構成的グループエンカウンター（以下「SGE」という。）は、以下の手順で進めます。

①インストラクション	エクササイズのねらい、大まかな内容、やり方、ルール、留意点を説明します。
②エクササイズ	参加者の思考・感情・行動を刺激して、心理的成長を促進することを意図して創られた課題に取り組みます。
③シェアリング	エクササイズを通して、自分の中に生まれた気づきや感想などを自分自身の中で振り返り、他のメンバーと語り合い、分かち合います。

インストラクションや、エクササイズでは、端末を活用していることを考慮して、SGEを構成していくことが大切です。

2. 令和3年度の取組

令和3年度は、県教育センター所員による研修会と市町教育支援センター指導員等研修会で「心をひらく端末支援メソッド」を試行しました。

実施内容

- ・県教育センター所員で、1人1台端末を活用して、Webex MeetingsによるSGEを行う。
- ・各グループ端末の活用を段階的に行う（カメラオン、カメラオフ、チャットのみ）。

(1) 県教育センター所員研修会での「心をひらく端末支援メソッド」の試行

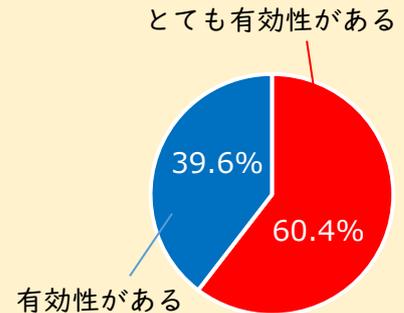
「心をひらく端末支援メソッド」の有効性と課題（事後アンケート結果から）

【有効性について】

- ・心理的に不安な度合いによって、3つのコミュニケーションから適切なステップを選択して交流することができる。
- ・画面上の顔がこちらをしっかりと向いていることから、自分もきちんと輪の中にいるという感じを受けた。端末活用が不登校児童生徒にとって有効なツールになりうるものだと思う。

【課題について】

- ・SNSと同じで文字情報のみで行うのは怖さがある。
- ・エクササイズの司会進行者の構成的グループエンカウンターに対する理解が必要である。



(2) 市町教育支援センター指導員等研修会での「心をひらく端末支援メソッド」の試行

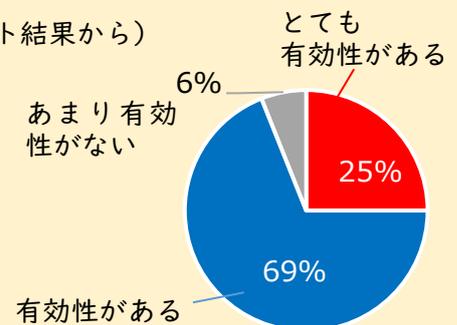
「心をひらく端末支援メソッド」の有効性と課題（事後アンケート結果から）

【有効性について】

- ・なかなか家を出ることができない児童生徒とつながることのできる、よい手段だと思う。まずはつながるところから、そして交流を進めていく中で信頼関係を築いていきたいと思う。

【課題について】

- ・有効な方法だとは思いますが、児童生徒が使いこなせるかという点で疑問が残る。
- ・現実としての整備がどのようになるのか不明なので、現状ではまだ難しい。



3. 今後の計画

令和3年度は、所員研修会や教育支援センター指導員等研修会の事後アンケートから「心をひらく端末支援メソッド」の有効性の示唆を得ました。

今後は、市町教育支援センターと連携し、より有効な不登校児童生徒への支援の在り方について研究していきます。

教育相談班は様々な相談を受け付けています

教育相談班では、「いじめ・不登校・発達障害等相談」など、様々な悩みの相談を受け付けています。詳細は、[長崎県教育センターWebサイトの「教育相談」のページ](#) [] から御確認ください。



ICTを活用した校内研修等について

1. 出前講座での「オンライン研修」

教育センターによる「出前講座」では、所員が出向き、研修講座で用いる資料を活用しながら県内の学校や教育研究団体等の研修に対する支援を行っています。内容によっては、会場と教育センターをリアルタイムにつなぎ、オンラインでやり取りを行いながら研修を行うことも可能（以下の表の赤枠）です。

オンライン研修は、全員が1つの会場に集まらなくても開催できる、対面でやりづらいことが画面上でできる等、オンラインならではのメリットがあります。私たち教職員も、研修の様々な開催方法にトライしてICTの活用に慣れていきませんか。

令和4年度

出前講座の利用案内

指導主事や研修講座で用いる資料を活用し、県内の学校や教育研究団体等での研修に対する支援を行います。



長崎県教育センター

番号	分野	関連する指標	講義		演習	内容	対応の可否		
			講義	演習			ICT活用	オンライン研修	研究援助との組合せ
小-12	人権教育	A K L A C (美・栄)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90分～			<input type="checkbox"/>
小-13	人権教育	A C	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90分～			<input type="checkbox"/>
小-14	アクティブ・ラーニング	H I J	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90分～		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小-15	カリキュラム・マネジメント	E F I E K (校長)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90分～		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小-16	読解力	H I J	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90分～180分	～児童生徒のつまづきに対する教師の働き掛け～		<input type="checkbox"/>
小-17	複式教育	H I J K	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90分～180分	複式授業づくりの基礎・基本 ～子供が主体的に学ぶ複式授業の在り方とは？～	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
小-18	国語	H I J	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	90分～180分	言葉による見方・考え方を働かせる小学校国語科の授業づくり ～質の高い言語活動を通して資質・能力を育てよう～	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

こちらの「ICT活用」欄には、内容によっては、教科等の中で1人1台端末を効果的に活用した内容への対応が可能な講座を○で示しています。

出前講座、研究援助の詳細と申し込みは、[長崎県教育センターWebサイトの「訪問支援『出前講座』と『研究援助』のページ」](#) []からお願いします。



それぞれの校種ごとにメニューを準備しています。

※研究援助でお申し込みされる場合は、教育センター企画課（TEL:0957-53-1186）へお問い合わせください。研究援助にて出前講座メニューを実施することも可能です。

※出前講座、研究援助にて「オンライン研修」を実施希望の場合は、事前に通信環境等についての「[オンライン研修チェックリスト](#)」 []の提出に御協力ください。

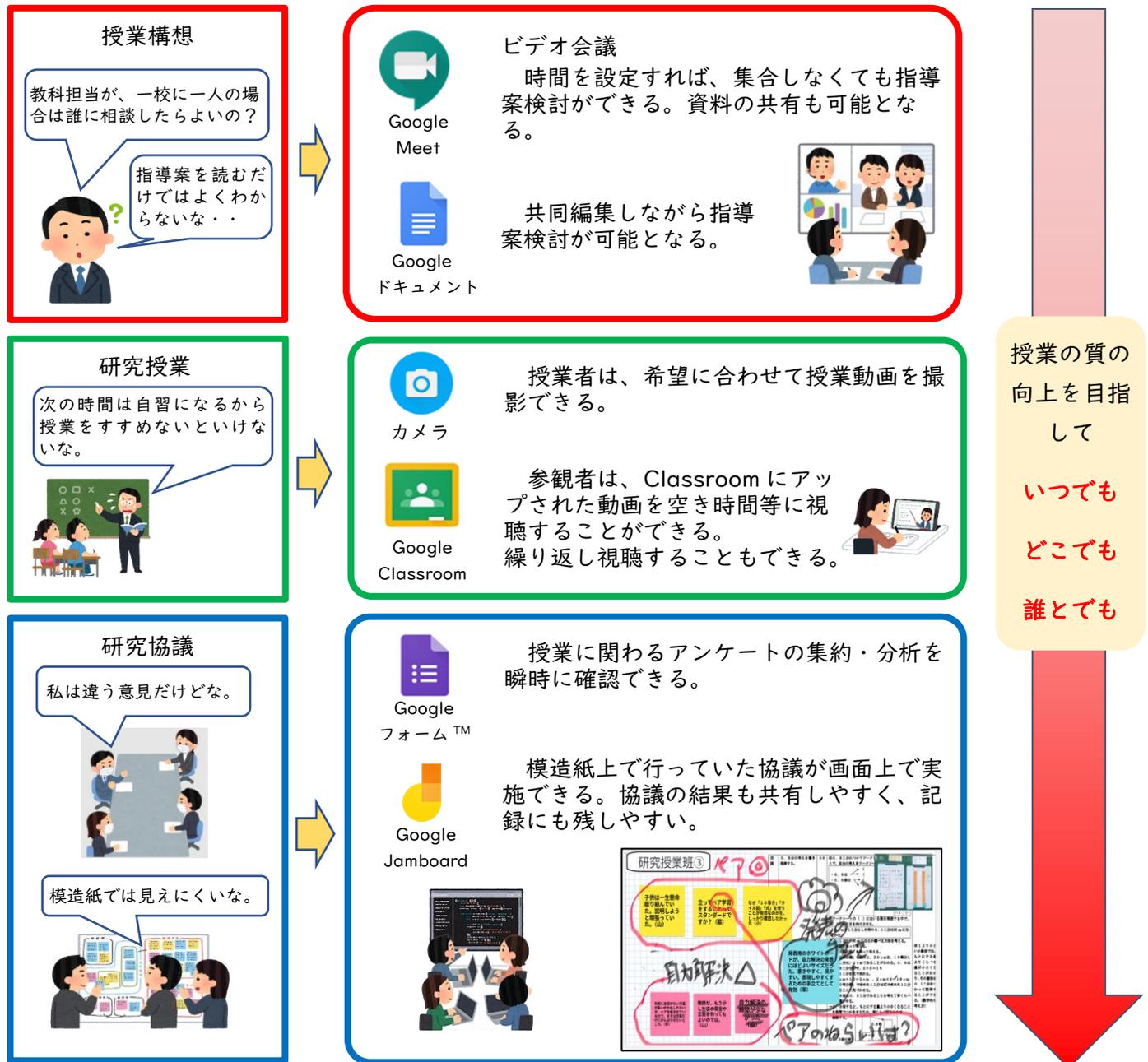
<出前講座「カリキュラム・マネジメントの確立に向けて」のアンケートより>

※参加者：各小・中学校教務主任等（計15名） ※オンライン（リアルタイム型）で実施

- ・まさに子供たちを育てていく中で、色々な部分を「つなぐ」ことが大切だということを感じた研修会だった。人的・物的リソースをより積極的に活用できるような体制づくりを目指したいと思った。
- ・カリキュラム・マネジメントにどのように関わればよいのかを学ぶことができた。9月に来年度のカリキュラム作成について提案予定なので、今回学んだことを取り入れようと思う。
- ・今回はオンラインでの研修だったので、校務用パソコンに指導計画や配付資料を提示しながら受講することができた。対面で会場にこれらの資料を持参してとなると、量も重さも大きなものになるだろう。

2. Google Workspace for Education™ を活用した模擬授業による研修方法の研究

教育センター内でも、ICTを活用した所員による所員研修会を実施しています。Google Workspace for Education を活用しながら、授業の質の向上を目指して、指導案検討から研究協議まで行う研修方法の研究を行いました。ICTを活用することで、研究を効率よく行うことができ、内容の充実にもつながることがわかりました。



授業やICTのスキルの向上、情報の共有を通して、私たち教職員も協働的な問題解決型学習を行いませんか。

[独立行政法人教職員支援機構（NITS）の校内研修シリーズ](#) []には、様々なテーマの講義動画（20分程度）が提示されています。県教育センターでも、NITSの研修動画のコンテンツを事前研修に指定して講座を運営することがあります。各学校でも校内研修の初めに視聴し、それをふまえた演習につなげることで、校内研修のさらなる充実が期待できるのではないのでしょうか。



1人1台端末時代における著作権について

本県でも、ここ1、2年のうちに、各教科の授業や学校行事など様々な場面で1人1台端末が活用されるようになりました。その活用方法には、スライド資料の提示、課題の配付と回収、作品の紹介、活動の様子配信、通信文の発信など様々なものが考えられます。活用の幅が広がるからこそ気を付けなければならないのが「著作権」です。

1. 学校における著作物の利用について

対面授業の予習・復習用の資料を送信



事前に録画した授業映像や資料を送信



リアルタイムでの授業配信



これまでの著作物の利用は…

著作権者の許諾が必要

時間が
かかる

手続きが
面倒

ここが変わった！！

学校の設置者がとりまとめて
補償金を支払うことにより

著作権者の許諾は不要になる

スムーズな著作物の利用が可能に！！

2. 授業目的の「複製」について

学校教育では、授業の過程^{※1}において他人の著作物を利用する際には、著作権法第35条により、例外的に複製等が認められています。

※1 授業の過程とは？

教科等の授業、初等中等教育の特別活動（学級活動、ホームルーム活動、クラブ活動、児童・生徒会活動、学校行事、その他）、部活動、課外補習授業、授業の予習・復習等

参考：改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）

○ 「複製」とは、どのような行為？



DOWNLOAD
ダウンロード

※1人1台端末の活用により、資料等のダウンロードの機会は一層多くなるとされる。



以下の「複製の条件」を1つでも満たしていない場合は、著作権者の許諾が必要です。

- 授業の過程に利用する。
- 授業にかかわる人物がコピーする。
- 必要と認められている限度内の部数である。
- すでに公表されている著作物である。
- 著作権者の利益を不当に侵害しない。
- 原則として出所（著者、タイトル、出版社、ページ、出版日等）を明示する。

3. 授業目的の「公衆送信」について

○ 「公衆送信」とは？

放送、有線放送、インターネット送信等により、不特定者または特定多数の者に送信すること。



1人1台端末を用いた授業等で、クラウドサービスの利用も多くなっている。

以下のいずれかに該当する場合で、著作権者の許諾なく利用するには、補償金^{※2}を支払う必要があります。

〈補償金の支払いが必要な公衆送信〉

- ・ 動画に関するデータファイル
(YouTube™ も含む)
- ・ データファイルの送受
(FAX、電子メール、クラウドサービス、Web ページ)
- ・ ビデオ会議システムでの画面共有

※2 補償金とは？（授業目的公衆送信補償金）

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（略称：SARTRAS）^{サートラス}に補償金を支払うことで、授業において、著作物を無許諾で公衆送信することができます。補償金額は、「授業目的公衆送信する著作物等の種類、回数にかかわらず、年度ごとに、種に応じて、1人当たりの補償金額に対象者の総数を乗じて得た額」とされています。（詳しくは、学校の設置者にお尋ねください。）

4. 困ったときは

○ こんなときは、どうすればよいのでしょうか？



学校行事（運動会等）の様子をリアルタイムで配信したいのですが、入退場や競技及び創作ダンスなどに、BGMとして多くの著作物を利用しています。この場合、補償金を支払っておけば、著作権者の許諾を取らなくても問題ないのでしょうか？

補償金の支払いに加え、配信の対象者を限定するなどの対策をしましょう。

著作物を利用した学校行事のリアルタイムによる配信では、

- ・ 配信範囲を教員、児童生徒、保護者に限定する
- ・ 動画のダウンロードや拡散を防ぐために、「ストリーミング配信（通信ネットワークを介して動画や音声などを受信して再生する際に、データを受信しながら同時に再生を行う配信）にする

などの対策が必要となります。

ただし、これが録画（オンデマンド）配信の場合は、著作権者の許諾が必要となる可能性があります。

○ 判断に迷ったときは、関係機関に問い合わせましょう。

[著作権情報センター
\(CRIC\)](#) [📄]



[授業目的公衆送信補償金等管理協会
\(SARTRAS\)](#) [📄]



○ 著作権の理解については、以下の動画が参考になります。

[スクール・コンプライアンス（著作権）校内研修シリーズ No105](#) [📄]

（独立行政法人教職員支援機構 NITS オンライン講座より）



“思い”をつなぐ

info! ながさき 31 号をお届けします。

目にいただいているとおり、今号から電子媒体でお届けすることとしました。

紙媒体の良さも理解しつつではありますが、様々なご意見もいただきながら、電子媒体の利点を生かした活用法を模索していきたいと考えています。

info! ながさきは、長きにわたり発行されてきた月刊誌『教育ながさき』に代わる全教職員配付の情報誌として、平成 22 年 4 月に創刊されました。

以来 12 年間、当初はリーフレットで年 3 回、令和元年度からは冊子で年 1 回の発行と、形は変えつつも通巻 30 号を数えます。

改めて各号に目を通すと、学力向上や特別支援教育の充実、いじめ防止などの喫緊の教育課題への対応、学習指導要領の改訂、GIGA スクール構想等々、

長崎県教育センター所長 立木 貴文

多彩な特集が組まれ、行間からは、“県内各地で子供たちと向き合う全ての先生方のために”という熱い思いが伝わってきます。

皆さんにお届けする形態は紙から電子媒体へと変わりますが、『教育ながさき』から受け継ぎ、これまで大切にしてきた“思い”は、これからもしっかりとつないでいきたいと思っています。

今号の特集は「学校での ICT 活用の推進」。

ICT の活用を、「子どもの資質・能力の育成」「協働」「特別支援教育」「不登校児童生徒支援」「校内研修」「著作権」など、多面的に捉えてみました。

1 人 1 台端末の導入や高速大容量ネットワークの構築が図られた「今」が、活用推進の「チャンス」です。本誌を活用しつつ、各学校で多くの先生方に「トライ」していただくことを期待しています。

研修講座のお知らせ

長崎県教育センターWebサイトの「研修講座一覧表」[]から研修講座に関する実施要項等の閲覧・ダウンロードが可能です。



研修講座一覧表

- 全ての研修講座
 希望者が受講できる研修講座
 該当者が受講する研修講座
 全ての校種
 幼稚園
 小学校
 中学校
 高等学校
 特別支援学校

令和 4 年度 研修講座一覧

実施期	期日	番号	講座名	対象校種	募集状況	実施要項・ご連絡・事前提出資料
第 1 期	4/13(水) - 4/27(水)	セ1	県立高等学校初任者研修 I	高		Download
第 1 期	4/13(水) - 4/27(水)	セ2	県立特別支援学校初任者研修 I	特		Download
第 1 期	4/21(木) - 4/22(金)	セ3	県立学校新任教頭研修 I	高 特		Download

校種、希望者、該当者等で絞り込んで表示することができます。

単票（講座の概要）はこちらからダウンロードできます。

実施要項（講座の詳細）・事前提出資料等はこちらからダウンロードできます。

「info! ながさき」に関するアンケートへの御協力をお願いします。

URL または、二次元コードよりアクセスしてください。

<https://forms.gle/ZSrrVkfWg5yZyYpJ8>



長崎県教育センター

〒856-0834
長崎県大村市玖島 1 丁目 24-2

学校支援 教員応援

総務課
電話 0957(53)1131
FAX 0957(54)0578

企画課
電話 0957(53)1186
FAX 0957(53)1190

教科・経営研修課
義務教育研修班
電話 0957(53)1132
FAX 0957(54)6496
高校教育研修班
電話 0957(54)6341
FAX 0957(54)6496

教育支援研修課
特別支援教育研修班
電話 0957(53)1130
FAX 0957(52)9242
教育相談班
電話 0957(52)9241
FAX 0957(52)9242